



万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部ニュース

News of Japan Chapter of International Society of Surgery

発行：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部
〒650-0017 兵庫県神戸市中央区楠町7-5-2
神戸大学大学院医学研究科
外科学講座食道胃腸外科学分野
TEL:078-382-5925 FAX:078-382-5939
発行者：掛地吉弘
編集責任：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部事務局長
小寺澤康文 (神戸大学食道胃腸外科)
印刷：株式会社dig TEL:03-3551-3060
年2回発行 1995年4月創刊

ISDS の President-Elect に 就任して

上尾中央総合病院 院長補佐 外科科長
肝胆膵疾患先進治療センター長

若林 剛



この度、昨年8月にクアラルンプールで開催された ISW 2024 において、ISDS 総会が行われ、私は ISDS の次期会長に任命されました。ISDS は非常に歴史のある学会であり、その前身は1969年にフランスとイタリアの外科医によって設立された Collegium Internationale Chirurgiae Digestivae (CICD) です。その後、1971年にイタリアのサンレモで第1回国際会議が開催され、1998年にはスペインのマドリードでの会議において、組織名が CICD から ISDS (国際消化器外科学会) に変更されました。

私が最初に参加したのは2004年に横浜で、横浜市立大学の嶋田 紘教授が主催された ISDS でした。当時は偶数年、つまり2年に1回開催されており、2006年にはローマで開催され、700人を超える参加者が集まりました。しかし、2008年に上海で開催予定だった ISDS は急遽中止され、その後 WCS (ISS/SIC) 内で統合された最初の ISDS は、2009年9月にオーストラリアのアデレードで開催されました。岩手医科大学の教室員を引き連れて、故 北島政樹教授と撮った写真が懐かしく思い出されます。

以後、ISDS は以下の WCS において重要な存在感を示しました。横浜 (日本) (2011年8月)、ヘルシンキ (フィンランド) (2013年8月)、バンコク (タイ) (2015年8月)、バーゼル (スイス) (2017年8月)、クラクフ (ポーランド) (2019年8月)、ウィーン (オーストリア) (2022年8月)、そしてクアラルンプール (マレーシア) (2024年8月) において、ISDS Kitajima Prize、ISDS Yokohama Prize、ISDS Grassi Prize、さらに Grey Turner Memorial Lecture の選定およびプログラムの構成に ISDS は深く関与してきました。

今回の ISW 2026 は、2026年4月19日から23日までメキシコシティで開催されます。現在、そのプログラムの作成を進めておりますが、万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部の皆様には多数のご参加を心よりお待ちしております。



IASMEN の President elect に就任して

神戸大学大学院医学研究科外科系講座
災害・救急医学分野 教授

小谷 穰治



2024年のクアラルンプール、マレーシアでの万国外科学会 (ISS/SIC) 学術集会 (International Surgical Week, ISW) において、IASMEN (International Association for Surgical Metabolism and Nutrition) の President elect に選任されましたので、ご挨拶をさせていただきます。

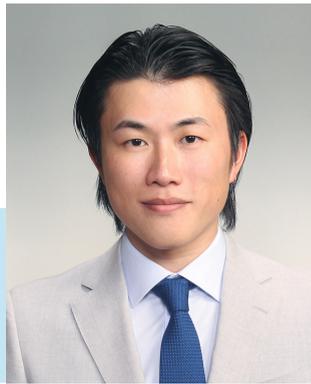
私が初めて ISW に参加したのは、記録がなく曖昧なのですが、おそらく1992年か1993年に香港で開催されたときだったと思います。生まれて初めての国際学会での発表でしたので、相当に緊張して、英語も下手でしたからまともな質疑応答はできなかったです。質問者が日本人なのに英語で質問してくることに違和感を覚えた記憶があります (当たり前なのですが、不思議な感覚を覚えました)。また、当時は神戸大学の研究生であり比較的時間がありましたから、学会後には夏季休暇を取って、先輩や他大学の仲間とフィリピンのアニラオにダイビングに行ったことも初めての ISW への参加の印象を良くしています。その後は長らく参加する機会がなかったのですが、2009年に近畿大学の柳治正先生が JSPEN (日本静脈経腸栄養学会、現在の日本栄養治療学会) の President であったときに 43rd Adelaide Australia への参加を誘われ、私も兵庫医大の救急災害医学講座

の教授になったばかりで、何名かの医局員を連れて参加しました。このときも多くの参加者の方々とともにワイン農場ツアーに行き、1日中酔っ払っていた思い出があります。ISW では常に楽しい思い出があります。これをきっかけに、2011年の横浜、2013年のヘルシンキ (フィンランド)、2015年のバンコク (タイ)、2017年のベジル (スイス)、2019年のクラコウ (ポーランド)、2021年のヴァーチャルミーティング、2022年のウィーン (オーストリア)、そして2024年のクアラルンプール (マレーシア) 全てに参加してきました。この中で、Organized committee (OC) のメンバーであった大柳先生や東口高志先生、Olle Ljungqvist 先生に引き上げてもらって、私も OC メンバーにならせていただき、Secretary General、Treasurer、Scientific Chairman を担当させていただきました。そして、このたび、President elect に選任され、2026年のニューメキシコで President に選任される予定です。予定と書いたのは、OC の役割は2~4年ごとに変わっていく、最終的に President elect、President になるという暗黙のルールがありまして、そのルールに従って私はこのたび President elect になっただけで、なにか大層なことをしたわけではありません。とはいえ、IASMEN は会員数が100名に満たない小さい学術団体ですから、その会員数を伸ばすことが私の責務と考えております。IASMEN は日本語で言えば、国際外科代謝栄養学会であり、侵襲を加える外科手術を行う外科医は必ず関わってくる領域です。とくに、ERAS (enhanced Recovery After Surgery) については近年進歩し続けており、手術後の予後の改善につながっている学問領域です。また、私が外科から救急集中治療に異動した経緯もあり、IASMEN では救急疾患や集中治療領域も重要なテーマになっています。今後とも万国外科学会、そして IASMEN の発展に尽力していく所存です。なにとぞよろしくお願いいたします。

国際学会初参加で Kitajima Prize Award を受賞させていただきました。

大分大学消化器・小児外科学講座
大学院生

藤島 怜央



万国外科学会御所属の先生方におかれましては、ご健勝のこととお慶び申し上げます。私は2024年8月25日から4日間、マレーシアのクアラルンプールで開催された International Surgical Week (ISW) に参加させていただきました。私にとって初めて参加する国際学会であった ISW では、口演発表をするという貴重な経験をさせていただいただけでなく、悪性疾患に関する研究発表に与えられる最優秀演題賞である Kitajima Prize Award の受賞もさせていただきました。

「胃癌手術の解剖学的ランドマーク教示 AI における生成 AI が仮想的に生成したアノテーション画像の活用」(演題名: Utility of virtual annotated images to recognize anatomical landmarks by AI in bleeding scenes during laparoscopic gastrectomy) というテーマで口演発表を行いました。これまで我々の施設では、腹腔鏡下胃切除術(LG)における術後合併症回避のために有用な解剖学的ランドマークを「臍臓及びその周囲臓器が形成する Dimpling Lines (DLs)」と定義し、幽門下領域と臍上縁領域において、これらを術中リアルタイムに教示する AI システムを開発してきました(Aoyama Y, et al. Surg Endosc. 2024)。この AI システムを用いることで、術中の内視鏡映像に対してリアルタイムに解剖学的ランドマークを教示することに成功した一方で、肥満や進行癌を認める高難度症例の一部シーンにおいてランドマークの誤教示が認められることが課題として挙げられました。その要因として、肥満や進行癌を認める症例では、リンパ節郭清の

ための適切な術野形成に必要なトラクションをかけにくいこと、術中の出血によって臍臓表面に血液が付着すること、DLs に血液溜りが生じることなどが考えられました。そこで、これらの課題を解決するために画像生成 AI を活用した教師データ拡充の有用性について研究を行いました。この研究は、生成 AI を活用して仮想的な出血画像を生成し、教師データとして学習させることの有用性を検証するものです。この研究により、出血術野画像に対する医師による新規のアノテーションを必要とせず、これまで正確なランドマーク教示が困難であった出血術野に対する教示精度が向上する可能性があることが分かりました。

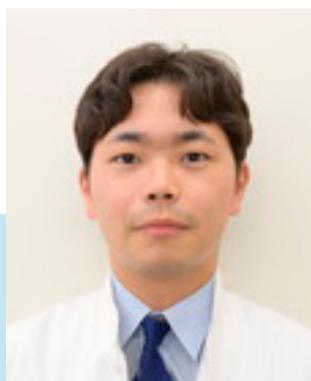
日常診療では、画像診断分野をはじめとして AI が臨床的に使用される時代となりました。外科分野では、我々大分大学を含む多くの施設が AI の臨床応用に関する研究を行っている現状です。今後も一人の外科医として、AI による情報支援手術の発展に寄与することで、さらなる社会貢献をしていきたいと思っております。



Lloyd M. Nyhus Prize を受賞して

慶應義塾大学医学部外科学(一般・消化器)

宇田川 大輔



2024年8月クアラルンプールで開催されました万国外科学会にて栄誉ある Lloyd M. Nyhus Prize を受賞することができ大変嬉しく思います。

私は自身の基礎研究のテーマである "Decellularized liver hydrogel"; Promising scaffold material that enhances cell engraftment in orthotopic hepatocyte transplantation" 【脱細胞化肝臓ゲルを用いた新規肝細胞移植法の開発】というテーマで発表の機会をいただきました。Best abstract として6人の演者がプレゼンテーションを行う形式であり、日本、マレーシア、イタリア、デンマークからの発表者とともに参加致しました。肝細胞移植(Hepatocyte transplantation: HCT)は、肝移植までの橋渡し療法または代替療法として期待されている治療法ですが、細胞の生着と肝細胞の機能発現低下などの問題があり、新規の移植法が模索されていました。本研究では、

細胞外マトリックス(Extracellular matrix: ECM)成分が豊富に含まれる脱細胞化骨格をハイドロゲル化(肝臓由来細胞外(Liver extracellular matrix hydrogel: L-ECM-gel)して、その肝細胞の生着の足場としての有用性を、ヒト肝細胞を用いた同所性肝細胞移植モデルで明らかにし、臨床的課題を解決する一つのツールになり得るか検討しました。In vivo では、成熟ヒト肝細胞を L-ECM-gel に封入し、正常なラット・肝線維化モデルラットの肝葉間に移植して行いました。病理学的解析において、L-ECM-gel は移植部位に局在し、L-ECM-gel 内に成熟ヒト肝細胞を保持しており、さらに血管新生や細胞間相互作用を促進させることで細胞の生着性を向上させている可能性が示されました。このように L-ECM-gel が移植肝細胞の生着をサポートし、細胞移植の足場として移植肝細胞が肝機能を発現できたことを示し、これらの結果を発表させていただきました。国際学会での発表は2回目でしたが、映えある舞台をいただき、準備を重ねて発表に挑みました。多くの質問を頂き、国外の参加者にも興味を持っていただけたことも大変な喜びでした。この国際学会での受賞を糧に、国際人として今後活躍できますよう益々臨床および研究に邁進していきたい所存です。

今回の受賞におきましては直接研究のご指導を頂きました一般・消化器外科八木洋先生、北郷実先生、北川雄光教授をはじめこれまでお世話になりました多くの先生方に深く感謝申し上げます。

ISDS Grassi Prize 受賞のご報告

大分大学 消化器・小児外科学講座
折本 大樹



万国外科学会会員の先生方におかれましては、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度は2024年8月25日－29日にマレーシアのクアラルンプールで開催されましたInternational Surgical Week 2024におきましてISDS Grassi Prizeを受賞させていただき、大変光栄に感じております。誠にありがとうございました。

今回発表させていただきました演題はDevelopment of an artificial intelligence system for the detection of scarring areas in laparoscopic cholecystectomyです。当科では合併症を防ぐための手術支援AIシステムの開発研究をおこなっており、私は猪股教授のご指導のもと、「腹腔鏡下胆嚢摘出術におけるBDIを予防する手術支援AIシステム」をテーマとした研究に従事して参りました。本研究は、胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術において、手術難度が高く、BDIの危険性が伴う癒痕化の術中所見をリアルタイムに提示し、術者の判断を支援することで合併症の予防に貢献する可能性を示しました。この研究成果がAI技術の外科手術へのさらなる

応用が期待させるものであり、この度の受賞につながったと考えております。諸先輩方から引き継いできた研究の成果がこのような形で評価いただきましたことを大変嬉しく思います。

国際学会には大変不慣れでありましたが、各国の外科医が集まり、緊張感たどる会場の中、プレゼンテーションをさせていただきました経験は、私にとって非常に得難い良い経験となりました。若輩者ではありますが、この経験を糧に日々の臨床、研究に励み、より良い外科医になるべく精進したいと思います。

最後にこのような貴重な経験をさせていただき、北野先生、猪股先生を始めとする万国外科学会日本支部の皆様深く御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。



患者さん自らが持つ免疫力を、
がん治療に大きく生かすことはできないだろうか――。
小野薬品とプリストル・マイヤーズ スクイブは、
従来のがん治療とは異なる
「新たながん免疫療法」の研究・開発に取り組んでいます。

ONO 小野薬品工業株式会社
プリストル・マイヤーズ スクイブ 株式会社

2023年3月作成

私の免疫力に、
がんと闘う力を。

Immuno-Oncology 未来をひらくがん免疫療法

まだないくすりを
創るしごと。

明日は変えられる。

astellas
アステラス製薬株式会社
www.astellas.com/jp/

2025年度予算案 (2025年1月1日～12月31日) ISS/SIC

日本円の部

単位:円

収入の部	予算額	備考
ドルから預替	700,500	4,670ドル 1ドル150円で計算
広告掲載料	200,000	8社(1口あたり25,000円)
寄付	0	
雑収入	0	
利息	0	
当期合計	900,500	
前年度繰越金	3,260,200	
収入合計	4,160,700	
支出の部		
会議費	350,000	支部総会2回分
通信費	50,000	
印刷費	165,000	支部ニュース2回発行分(PDF版)
文具費	10,000	
交通費	350,000	
人件費	500,000	
雑費	20,000	
予備費	30,000	
支出合計	1,475,000	
収支残高(次年度繰越金)	2,685,700	

収入の部(Yokohama Award)	予算額	備考
前年度繰越金	4,808,480	
収入合計	4,808,480	
支出の部(Yokohama Award)		
Yokohama Award 賞金	0	
支出合計	0	
収支残高(次年度繰越金)	4,808,480	

ドルの部

単位:ドル

収入の部	予算額	備考
会費	4,752.00	USD 45×110名(2025年会員支払人数)×4%チャージ
利息	0	
繰越金	341.82	
収入合計	5,093.82	
支出の部		
日本円へ預替	4,660.00	2025年分 4,660ドル 1ドル150円で計算
スイス本部への寄附	0	
支出合計	4,660.00	
次年度繰越金	433.82	

2024年度収支決算書 (2024年1月1日～12月31日)

日本円の部

単位:円

I収入の部	予算額	決算額	備考
会費	700,000	700,001	
広告掲載料	200,000	200,000	4社(1口あたり50,000円) 58号2口、59号2口
寄附	0	71,319	Japan Night 余剰金
雑収入	0	777	
当期合計	900,000	972,097	
前年度繰越金	3,188,160	3,188,160	
収入合計	4,088,160	4,160,257	
II支出の部			
会議費	300,000	346,610	支部総会(春:ハイブリット、秋:現地)
通信費	50,000	34,367	
印刷費	150,000	156,200	支部ニュース第58号、第59号(PDF版)
文具費	10,000	1,980	
交通費	90,000	208,370	
人件費	500,000	150,000	
雑費	20,000	2,530	
予備費	30,000	0	
支出合計	1,150,000	900,057	
収支残高	2,938,160	3,260,200	次年度繰越金

YOKOHAMA AWARD

I収入の部	予算額	決算額	備考
前年度繰越金	5,310,240	5,310,240	
収入合計	5,310,240	5,310,240	
II支出の部			
Yokohama Award 賞金	500,000	500,000	
雑費	0	1,760	
支出合計	500,000	501,760	
収支残高	4,810,240	4,808,480	次年度繰越金

USドルの部

単位:ドル

I収入の部	予算額	決算額	備考
会費	4,968.00	4,104.00	USD45×95名(2024年会員支払い人数)×4%チャージ
利息	0	0.08	
前年度繰越金	817.70	817.70	
収入合計	5,785.70	4,921.78	
II支出の部			
日本円へ預替	5,000.00	4579.96	USD 4579.96@152.84
スイス本部への寄附	0	0	
支出合計	5,000.00	4579.96	
次年度繰越金	785.70	341.82	

残高 日本円 3,260,200円 (通帳残高 3,233,710円+現金 26,490円)
 日本円 4,808,480円 (通帳残高 4,808,480円)
 ※2011年 ISW2011 横浜より YOKOHAMA AWARD 賞金として余剰金(7,812,000円)を寄贈
 USドル 341.82ドル (通帳残高 341.82ドル)

ISS/SIC 万国外科学会 日本支部

2025年 1月 10日 監事 宮内 昭 印
 2025年 1月 17日 監事 浮野 倫明 印

51th World Congress of Surgery

International Surgical Week 2026 Mexico City (ISW2026 メキシコ)

2026年4月19日(日)～23日(木)

ご案内

2026年4月19日(日)～23日(木)の5日間、メキシコのメキシコシティにおきまして、International Surgical Week 2026 Mexico City (ISW2026 メキシコ)が開催されます。日本の皆様の多数のご参加を心よりお待ちしております。

演題登録締め切り 2025年8月8日(木)

※変更される場合がございますので、最新情報はHPをご確認ください。



Mexico City, Mexico
 19 - 23 April 2026
 51st World Congress of the International Society of Surgery ISS/SIC

International Surgical Week
 The World's Congress of Surgery
 isw2026.org
 Jointly organized with the 34th International Congress of the Mexican Association of Endoscopic Surgery

Yokohama Award

5名程度 Award 一人当たり10万円

ISS/SIC 日本支部は、日本からの若手外科医の ISW の参加を支援しています。

応募条件は、応募時点で40歳以下の日本人外科医で、

① ISW2026 メキシコに Oral の演題を提出、かつ ② ISS/SIC の日本支部会員からの推薦があることです。

第56回万国外科学会(ISS/SIC)日本支部総会議事録

2024年11月23日（土曜日）午前7:15～7:45
ライトキューブ宇都宮 大会議室 201
現地開催

出席者：掛地吉弘、菊池寛利、小林道也、竹内裕也、淵本康史、溝端康光、和田則仁（敬称略、五十音順、計6名）
（事務局：小寺澤康文、藤本早紀、石井綾香）

1 開会挨拶

小寺澤事務局長より開会挨拶。

2 支部長挨拶

掛地日本支部長よりご挨拶、学会最終日の早朝にも関わらずご参集いただいたことへの御礼がなされた。

3 ISS/SIC 理事会報告 掛地日本支部長：

8月25日に実施されたISS/SIC理事会の報告として、

- ① 新PresidentにProf. Ari Leppaniemiが就任された。また、理事の一部にも交代があった。
- ② 現在のロゴの変更を検討している。世界地図をモチーフにしたロゴなどが候補となっている。
- ③ 参加学会について、今回でIAES、ASAPが脱退し、IASSSが新規入会した。今後、学生や研修医にも参加を促す予定である。
- ④ 次回は、ISW2026はメキシコシティで4月19日-23日に行われることが決定した。ISW2028はケープタウン（南アフリカ）、バクー（アゼルバイジャン）で行われる予定である。

4 International Surgical Weekについて 小寺澤事務局長：

- ① ISW 2024 2024年8月25日から29日クアラルンプールコンベンションセンターで開催された。約100人の日本人に参加していただいた。
- ② Grey Turner Lecture 北川雄光先生が、日本人として3人目のGrey tuner lectureを務められた。
- ③ Japan Night 8月28日Japan Nightがクアラルンプールコンベンションセンター近くのImpiana Hotelにて開催された。総勢66名もの方にご参加をいただいた。

5 支部活動報告

ニュースレターの発行、支部総会の開催、2024年度会計について報告があった。

6 Collective Member Societiesより

■ IATSIC 溝端先生：

DSTC、DATCのコースを、IATSICのKen Boffard先生、Elmin Steyn先生を招いて、2024年11月25日-27日まで川崎市のジョンソンエンドジョンソンラボにて開催する予定である。

日本、韓国、インド、タイからDSTC（外科医）に20名、DATC（麻酔科）に4名の参加を予定している。今後、若手医師にも参加を促す予定である。

■ IASMEN 小谷先生（小寺澤事務局長代読）：

ISW2024では、初の試みとしてASSMN（アジア外科代謝栄養学会）とのjoint sessionが企画された。本会は日本/韓国/台湾の外科代謝栄養学会が主体となって誕生した国際組織で、24年10月24日に第3回の学術集会在台湾で開催された。本企画が、アジアと世界各国との外科代謝領域での学術交流の一助になればと考えており、今後も継続する予定である。

7 次回日程について 小寺澤事務局長：

令和7年4月12日（土）、宮城県（仙台国際センター近傍）にて現地開催を行う予定である。

8 閉会挨拶

次回の日本支部総会、ならびにISW2026への参加の呼びかけがなされ、掛地日本支部長の閉会の挨拶で締めくくられた。

以上

日本支部活動報告

2024.4.1	万国外科学会（ISS/SIC）日本支部ニュース第58号発行
2024.4.20	第55回万国外科学会（ISS/SIC）日本支部総会（ハイブリッド開催）
2024.8.25-29	ISW2024開催（日本より約100名の先生方が参加） JAPAN NIGHT開催 参加者：66名
2024.11.1	万国外科学会（ISS/SIC）日本支部ニュース第59号発行
2024.11.23	第56回万国外科学会（ISS/SIC）日本支部総会（現地開催）

会員動向

会員数	303名
名誉会員	1名
シニア会員	17名
正規会員	285名

※2025年2月28日現在



キラリと光る
グローバルプロバイオティクス
製薬企業

Miyarisan ミヤリサン製薬株式会社